

アドバイザー派遣事業実施レポート

鳥取市立南中学校

1. 研修テーマ 「わかった。できた。」が実感できる授業の創造。～ユニバーサルデザイン授業の推進～

2. アドバイザー 明星大学 小貫 悟 教授

3. 研修の概要

実施期日 27年12月22日(火) 13時00分～17時00分

実施場所 鳥取南中学校 1年教室(研究授業), 特別教室(研究会)

日 程 (1) 研究授業 13:00～13:50

[教科] 国語(1年) [題材名] 「今に生きる言葉」

(2) 授業研究会 14:20～15:00

① 本校研究について(研究主任)

② 研究授業について

・国語科の取り組み(国語主任)

・授業者自評

・質疑等

(3) 指導助言・講演 15:00～16:40

「授業のユニバーサルデザインの方法」 小貫 悟 教授(明星大学)

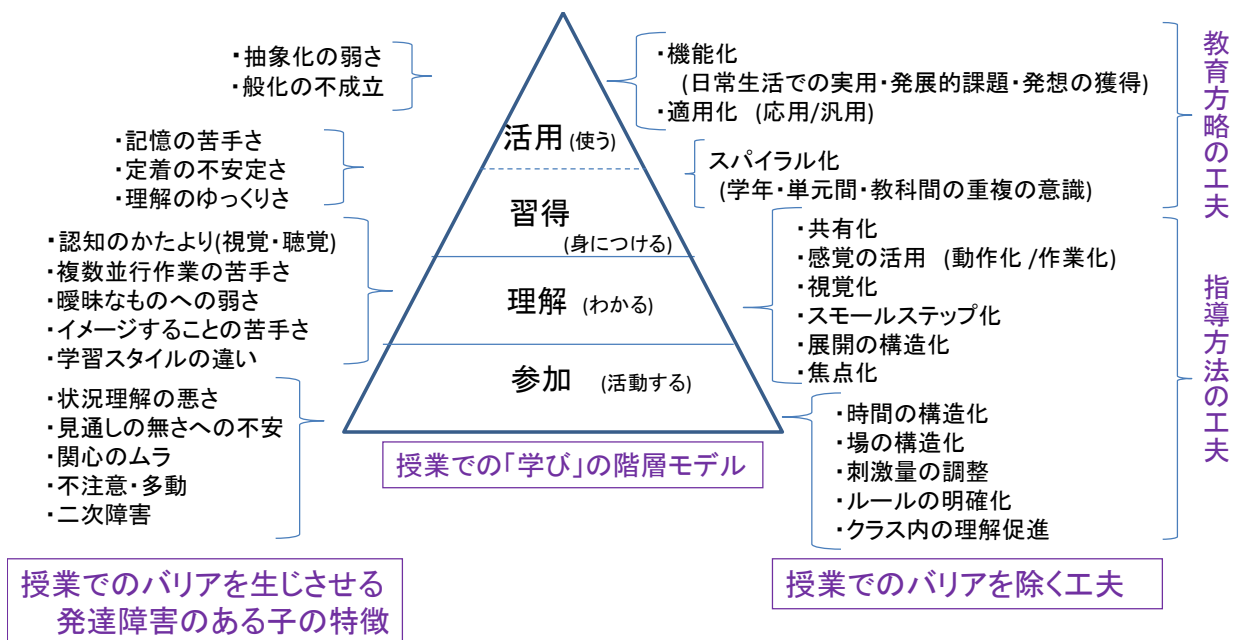
4. 研修のまとめ

本校では、「考え・練り合い・表現する力の育成～ユニバーサルデザイン授業を基盤とした「南中の学び」スタンダードの構築～」を研究主題に、ユニバーサルデザイン授業(以下、UD授業)の研究に取り組んでいる。UD授業研究の第一人者である小貫悟先生にその理論研修と本校の研究実践への助言・指導を行っていただいた。はじめに国語科の研究授業*1および授業研究会を行い、その後、小貫先生による講演会*2(「授業のユニバーサルデザインの方法」)を行った。UD授業を行う意義・目的、UD授業の作り方等について、具体的な実践事例を示されながら、大変分かりやすく教えていただいた。本日の国語科研究授業についてもUD授業の視点で分析し、よりよい授業づくりについての助言と指導をしていただいた。授業者はもとより、参加したすべての教員が、UD授業の理解と認識を深めることができ、授業改善への意欲を高めることができた。

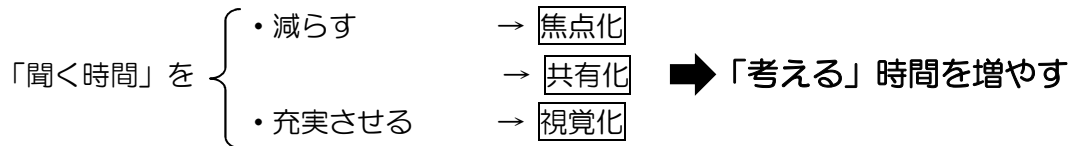
※1 別資料(学習指導案)参照

※2 講演会: 小貫悟教授(明星大学)「授業のユニバーサルデザインの方法」の要旨

(1) 授業のUD化モデル



(2) 不参加が生じやすいのは「聞く時間」→「聞くだけの時間を減らし、考える時間を増やす」



授業のUD化（＝一人ひとりの子が「考えられる」サポート）

(3) UD授業への道筋

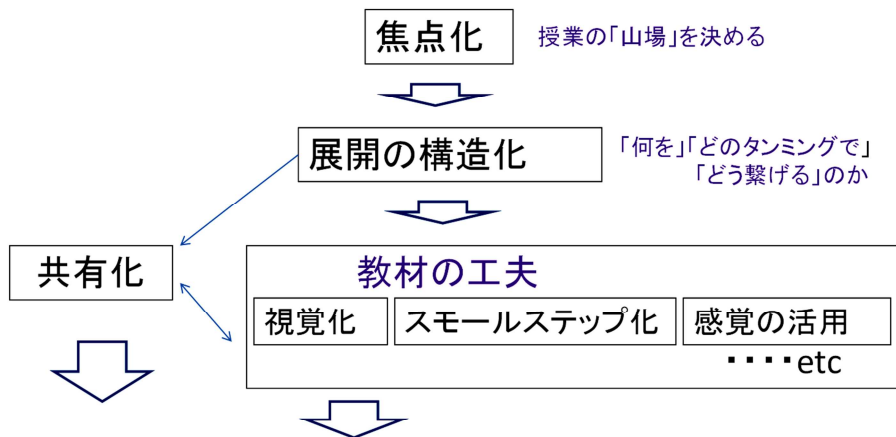
- ◆First challenge：授業環境の整備(参加支援)
クラス内理解/刺激量の調整/場の構造化/時間の構造化
- ◆Second challenge：授業視点の導入(理解支援)
焦点化/展開の構造化/スモールステップ化/視覚化/感覚化/共有化
- ◆Third challenge：授業展開の工夫（習得・活用支援）
山場から逆算/アンカーの打ち込み/課題設定/一般化につながるまとめ

(4) Second challenge：授業視点の導入(理解支援)

UDの工夫の視点

- ・焦点化
 - ・展開の構造化
 - ・スモールステップ化
 - ・視覚化
 - ・感覚化（感覚の活用）
 - ・共有化
- など

(5) UDの工夫の視点の関係



「わかった!」「できた!!」の達成

(6) UD授業に関する評価の視点

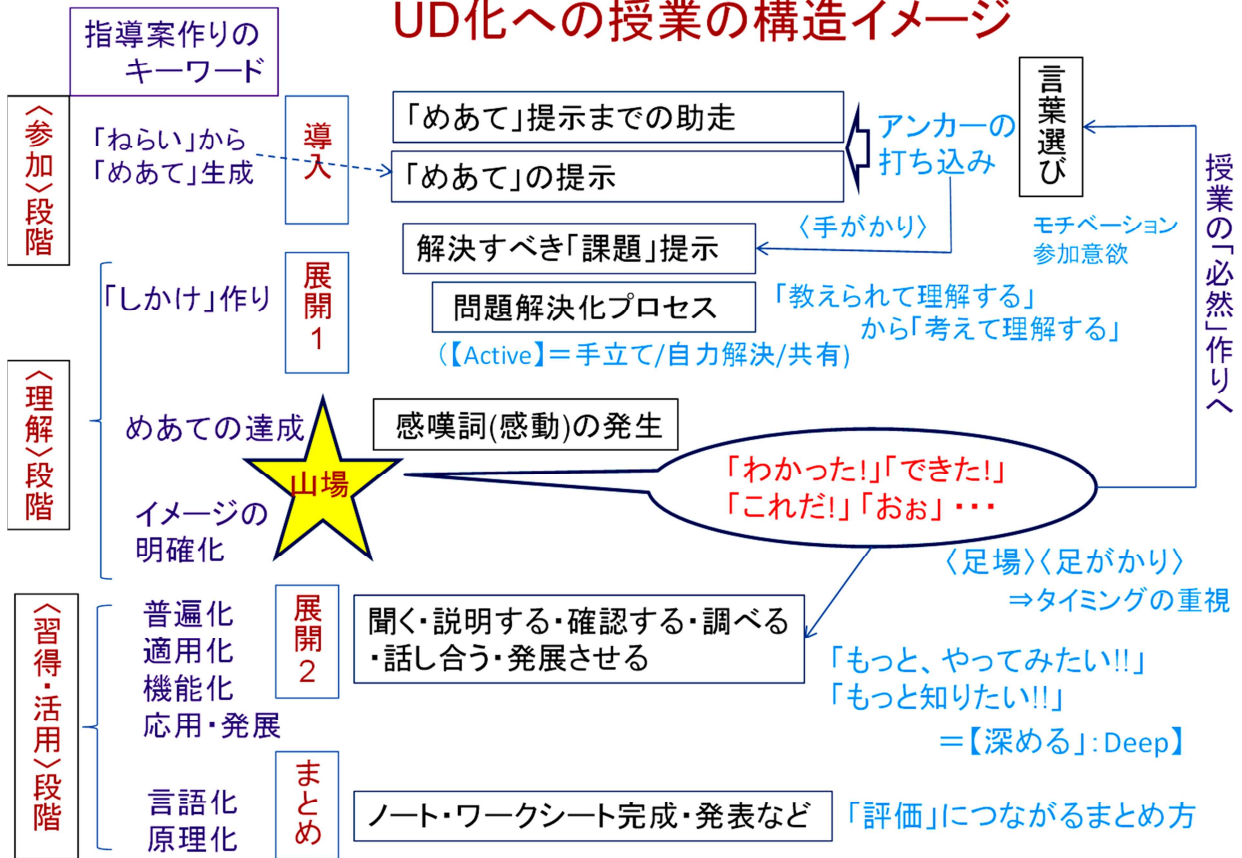
- ・「児童生徒に受け身の姿勢がなかったか。」
 - ・「主体的に「考える」様子が見られたか。」
- ※指導案には、「考える」姿勢を作るためにどのような工夫をしたのかを明記する。(例:視覚化、共有化)
- ※視点を入れれば、「UD達成」ではない。
- 評価は工夫が入っているかどうかではなく、子どもの様子によって決定する。
- ※UDモデルで示した視点は、あくまで、一つの視点。
- それを入れずに違った工夫を入れることも大切。(その際には、指導案にそのことを明記する。)

(7) UD授業の最大のテーマは「統合」

→従来の授業展開でのウィークポイント

(8) UD化への授業の構造イメージ

UD化への授業の構造イメージ



≪UD授業の展開（授業の流れ）≫

導入(「めあて」の提示) → 展開1 → 山場(「めあて」の達成) → 展開2 → まとめ(「ねらい」の達成)

※「ねらい」と「めあて」～「ねらい」と「めあて」は違う!～

「ねらい」…本時目標（教師が子どもにつけたい力。教師の目標）



ねらいの明確化…「ねらい」から「めあて」を生成。

「めあて」…山場（わかった！できた！）に向けての生徒の目標

(9) UD授業作りの〈7ステップ〉

